

第6学年 総合的な学習の時間指導案

大阪市立清水小学校
指導者 小谷 亮太

1. 日 時 令和7（2025）年7月3日（木） 第6校時（14：30～15：15）
2. 学年・組 6年2組 計32名
3. 場 所 6年2組教室
4. 単 元 名 『平和のバトンをつなげよう』～伝えよう後輩たちに～
5. 目 標
 - 戦争や平和に関わる遺構や情報を見聞する体験活動や学習を通して、集めた情報を関連付けながら課題を解決するとともに、戦争の悲惨さや平和の大切さに気付く。（知識・技能）
 - 戦争や平和に関する問い合わせを見い出し、課題の解決に向けて情報を収集、整理・分析していく中で、考えの根拠を明らかにし、わかりやすくまとめて表現する。（思考・判断・表現）
 - 戦争や平和について学んだり感じたりしたことを自分の生活と関連付け、自分ができることを考えて実行しようとする。（主体的に学習に取り組む態度）
 - 収集した情報から、解決に向けた活動を実現するために情報活用の見通しを立て、実行している。

6. 指導にあたって

（1）児童観

本学級の児童は、1年生の時から平和学習に取り組んできている。これまで毎年8月6日に行われている平和集会を通して、日本で戦争があったことや、戦争によって動物も犠牲になったこと、広島・長崎に原爆が落とされていることは知っている。高学年になってからは、総合的な学習の時間で、大阪大空襲や沖縄戦について調べ学習をしたり動画を見たりして平和について考えてきた。その中で戦争は絶対に繰り返してはいけない、平和な世界を全ての人たちが目指すべきであるということを学習してきている。また、6年生の社会科の学習を通して、いつの時代も人々が争いや戦いをしてきたということを学習している。戦争はいけないこと、間違っていると理解している。その中で、「戦争が恐い」、「悲しくなるから写真や資料を見たくない」という児童も一部いる。日々平和な生活を送り、戦争が遠い存在だと感じている児童に対し、戦争や平和に関する多くの情報を得るだけでなく、戦争の悲惨さや平和への取り組みを知る機会として、修学旅行で自分事として捉えることができる手立てが必要だと考える。

平和学習に関するアンケート（資料①）では、「平和学習に興味がある」という項目に対して90%以上の児童が肯定的にとらえており、平和学習に対しての意欲が高い児童が多いことがわかる。また、「平和学習は大切である」という項目では、100%の児童が肯定的にとらえており、平和学習の積み重ねが表れる結果となった。しかし、「平和学習について調べることが好きだ」という項目では約14%、「平和学習について調べたことをまとめることができが好きだ」という項目に対しては約20%の児童が、消極的な考え方をもっており、平和学習に対しての苦手意識ではなく、調べたりまとめたりする情報収集能力が低いことで消極的な回答になったと考えられる。そこで、普段から多く活用している学習者用端末を取り入れながら平和学習を進めていこうと考えた。

ICT活用については、アンケート（資料②）より、85%以上の児童が学習での活用を肯定的に捉えており、今後の学習でも効果的に活用できると思われる。教科にとらわれず活用場面を多く取り入れてきたこともあり、技能的な力がついてきていると言える。ICTの更なる活用で重要なのは、文字の入力や情報収集能力であると考えた。そこで、タイピングアプリ「寿司打」や「らっこたん」でタイピング練習に取り組んだ。授業の中だけでなく、休み時間、放課後（自宅で）の時間を活用して毎日、タイピングスキルの向上を図った。得点を友だち同士で競い合いながら取り組む姿が見られ、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。また、週末には写真日記の課題を設定したり、授業中に発表ノートを用いて発表したりして学習者用端末に触れる機会を多く設け、端末操作に慣れてきている。また、体育科の走り高跳びでは、自分の跳び方を撮影し、友だちの跳び方と比較し、意見交換をしたり、音楽科の合奏練習では、合奏の担当する楽器ごとのチームで手本動画

を見て練習し、改善点を伝えあつたりして学習に取り組んだ。協働的な学びの場を取り入れることで、友だち同士のやり取りができるようになってきた。

(2) 教材観

日本で起きた戦争では、大阪大空襲や沖縄戦、第二次世界大戦、原子爆弾の投下により、多くの命が失われた。この経験から、戦後の日本は戦争をしない平和で民主的な国へと生まれ変わることになった。戦争が無いから平和なのではなく、平和を守る大切さを語り伝えているから戦争がないのだといえる。平和な今、戦争の苦しい経験をした人たちが減り、語り部さんも少なくなっている。戦争の悲惨さや平和への取り組みを知る機会として、本校では修学旅行で広島を訪れる。そこで見聞したことや感じたことを下級生へ伝える活動に取り組んでいる。修学旅行では、戦争や平和に関する多くの情報を得るだけでなく、戦争の悲惨さについて体験的に深く感じることができる。緑があふれる平和公園は、もとは人が住む普通の街だったこと。壊れた原爆ドームの中では、人が働いていたこと。目の前を流れる川はたくさんの人人が水を求めた場所だったこと。原爆が落ちて何年も経っているのに、13才の少女が原爆症で死んでいったこと。これらの事実を現地で見聞した体験を通して捉えることは、平和のために自分には何ができるかと考えるための大きな力となり、探究的な活動につながりやすいといえる。依然として紛争や戦争の犠牲となる人たちが存在し、暴力で物事を解決しようという考え方も残っている。日常の中での自分たちの過ごし方に気をつけたり、平和の大切さを周りに伝え続けたりすることで戦争が起きない平和な未来が実現するという強い思いをもち続けることができると考える。

(3) 指導観

本単元の学習では、これまでの平和学習や社会科の「戦争と私たちの暮らし」から、日本が戦争をしていた事実や、戦争中や戦後の生活に苦しんでいたということに気づかせ、平和を受け継いでいくためには自分たちにはどのようなことができるのかを考え、進んで行動することができるようになしたい。学習の進め方などを全員で共有し、どんな課題があるのか、最終的なゴールはどこなのかを確認し、一人ひとりが見通しを持って学習に取り組んでいくことができるようになる。

第1時では、修学旅行で感じたことや知ったことをグループごとに whiteboard を活用し共有する。本物を見て感じたことを書き込ませ、行く前と行った後の違いについて考えさせ、一人ひとりの感じ方への意識に違いがあることや違った見方があることに気付けるようにしたい。

第2時では、朝日新聞「知る原爆」を読み、修学旅行で得た知識と重ね、深く読み取る。

第3時、4時では、広島で出会った人やものなどから学んだ経験をもとに、自分たちがさらに深めていきたい新しい課題や、自分にできることは何かを考えていく活動に発展させていきたい。グループごとに自分たちが伝えたい事が何なのか話し合う。そして全体で伝える内容に偏りが無いよう調整する。課題が決まったグループから資料やインターネットをもとにさらに詳しく調べ、内容を整理する。

第5時（本時）、6時では、整理した内容をもとに PowerPoint を活用し、グループで発表資料を作成する。学習の始めには、今日の学習内容を明確にし、個々に本時の見通しを持つようにする。ここでは、PowerPoint を活用して、自分のペースで課題に取り組み、できた資料を友だちと共有しながら進めていく。友だちのがんばりや学びを本時以降の自分の学びの参考にできるようにする。一人で取り組むのが苦手な児童には、積極的に友だちに相談するようにしていき、協働学習を意識させたい。さらに学びの場を共有できるよう、いいとこ発見タイムを作り、他のグループの良いところを見つけられるようにし、よりよい発表資料ができるないようにしたい。

第7時では、グループごとの発表を聞き合い、伝えたい事が伝わっているか確認したり、他の発表の仕方を自分の発表にいかしたりできるようになる。

第8時、9時では、平和学習のまとめとし、下級生に発表資料をもとに平和についての報告を行う。平和学習（修学旅行）で知ったことや自分たちがこれから平和な未来をどう作るのか、学びの中から感じたことをしっかりと伝え、受け継いでいけるようにする。

第10時、11時では、平和学習の総まとめを原稿用紙に書く。過去の平和学習教材や自分たちの発表を提示し、6年間の平和学習を振り返り、戦争や暴力がないだけが「平和」ではないということを意識できるように声をかけて文章をつくり、平和学習の集大成としたい。

(4) ICT の活用について

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他 ()
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他 ()
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> グループの考え方をまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考え方の比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考え方を表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input checked="" type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成 <input type="checkbox"/> 持ち帰り <input type="checkbox"/> オンライン接続
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (大型テレビ)
活用コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> • PowerPoint • whiteboard • Microsoft Teams (協同編集) • SKYMENU Cloud
ICT 活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Teams を使うことにより、友だちの学習の進捗状況を知ることで協働的な学びの一助とする。 • PowerPoint を協同編集することで自分の考え方を広げたり、友だちの考えに気づいたりできるようにする。また、一人ひとりが自己の学習を調整しながら学習を進めることができるようになる。

7. 指導計画 (全 11 時間)

次 時	主な学習活動	個別最適な学び 協働的な学び	
一 1	・ 資料館や語り部さんのお話などで得た情報を整理する。	個・協	
	・ 新聞「知る原爆」を読み、修学旅行で得た知識と重ね、深く読み取る。	個・協	
二 3 ・ 4	・ 発表で伝える内容を考え、資料やインターネットをもとに詳しく調べる。	個・協	
	⑤ ・ 6	・ 整理した内容をもとに PowerPoint を活用し、グループで発表資料を作成する。	個・協
三 7	・ 発表資料をもとにグループでの発表を聞き合う。	個・協	
	8	・ 1年生～5年生に平和学習の報告をする。	個・協
	9	・ 平和集会で全校児童に発表する。	個・協
四 10. ・ 11.	・ 平和学習の総まとめ(六年間の振り返り)を原稿用紙に書く。	個	

8. 評価規準

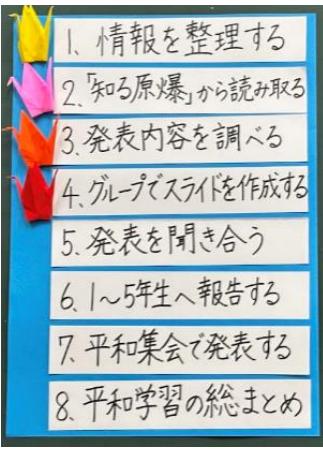
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
戦争や平和に関する遺構や情報を見聞する体験活動や学習を通して、集めた情報を関連付けながら課題を解決するとともに、戦争の悲惨さや平和の大切さに気付いている。	戦争や平和に関する問い合わせを見い出し、課題の解決に向けて情報を収集、整理・分析していく中で、考えの根拠を明らかにし、下級生に伝わりやすいようにまとめて表現している。	戦争や平和について学んだり感じたりしたことを自分の生活と関連付け、自分ができることを考えて実行しようとしている。
情報の大体を捉えるとともに、それらの情報を比較・分類している。	収集した情報から、解決に向けた活動を実現するために情報活用の見通しを立て、実行している。	集めた情報を振り返り、効果や改善点を見出そうとしている。

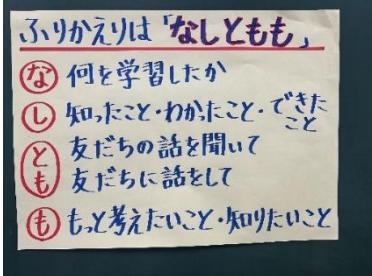
9. 本時の学習（本時 5／11）

(1) 目標

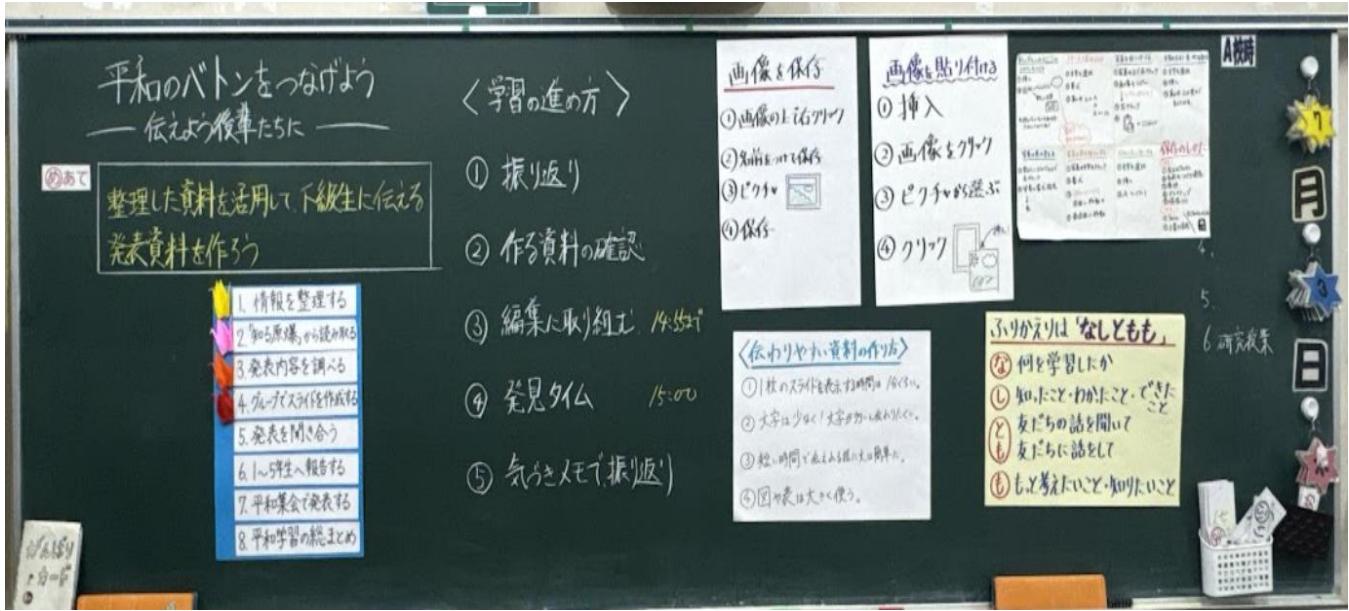
- 修学旅行を通して見聞したことや調べたことをわかりやすくまとめ、表現することができる。
- 下級生に伝わりやすい発表資料を作ることができる。

(2) 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点	☆ICT 活用の留意点 使用機器・コンテンツ	評価の観点
1. これまでの学習を振り返る。 ○ 自分の学習の進捗状況などを確認する。	・ 整理した内容を確認し、学習の振り返ることができるようになる。	☆ 整理した内容を見ながら、前時までの学習を振り返るようにする。 ・ 学習者用端末 (PowerPoint)	・ 前時までに用意した資料を使って、意欲的に取り組もうとしている。(主)
2. 自分の学習計画を確かめ、学習の見通しを持つ。			
(め) 整理した資料を活用して、下級生に伝える発表資料を作ろう。			
○ 自分が取り組む課題 ○ 本時の流れ（時程） ○ 操作の説明	<ul style="list-style-type: none"> • 取り組む課題を明確にして学習に取り組めるように、本時の流れを確認する。 • 見本の PowerPoint 資料を提示することで、参考にしながら資料作りができるようにする。 • 時間配分を児童と決め、計画的に作業が進められるようにする。 	☆ 今日の計画や進捗状況を提示し、友だちの学習状況がわかるようにする。 ・ 指導者用端末 ・ 大型テレビ (SKYMENU Cloud)	

<p>3．協同編集に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のペースで作業に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表に行く学年を確認することで、相手意識を高められるようにする。 ・ 取り組むことが難しい児童には、近くの友だちと相談してもよいことを伝え、柔軟に取り組むができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型テレビ ・ 指導者用端末 ・ 学習者用端末 (PowerPoint) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や図表が関連付けられた発表資料を作ることができている。(思・判・表)
<p>4．本時の学びを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 紹介時間（いいとこ発見タイム） ○ 自由に移動し、本時で取り組んだ編集資料を友だちと共有する。 ・ 進み具合をチェックする。 ・ よりよいものが作れるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ できた発表資料を確認し、見せ方のヒントを与えてたり、編集時のアドバイスをしたりするようになる。 ・ 同じ内容でも、いろいろな友だちの意見を聞きに行くよう促す。 ・ 大型テレビに提示された発表資料を参考にしながら学びの共有ができるよう声をかける。 		
<p>5．本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りを入力する。 <ul style="list-style-type: none"> ・他の班と比べてみて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の学習につなげられるように、本時の学びや次時の見通しをイメージできるようにする。 	<p>☆振り返りや次時の見通しを共有し、友だちの学びにも関心を持つことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大型テレビ ・ 指導者用端末 ・ 学習者用端末 (SKYMENU Cloud) ・ 気づきメモ 	

(3) 板書



(4) 資料①

平和学習に関するアンケート

(%)

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1、平和学習に興味がある。	51	46	3	0
2、平和学習でもっと知りたいと思うことがある。	57	34	9	0
3、平和学習に関する話を聞くことが好きだ。	34	49	17	0
4、平和学習について調べることが好きだ。	32	54	14	0
5、平和学習について調べたことをまとめることができた。	40	40	20	0
6、平和学習で知ったことを下級生に伝えたいと思う。	55	34	11	0
7、平和学習は大切だと思う。	91	9	0	0

資料②

ICTに関するアンケート

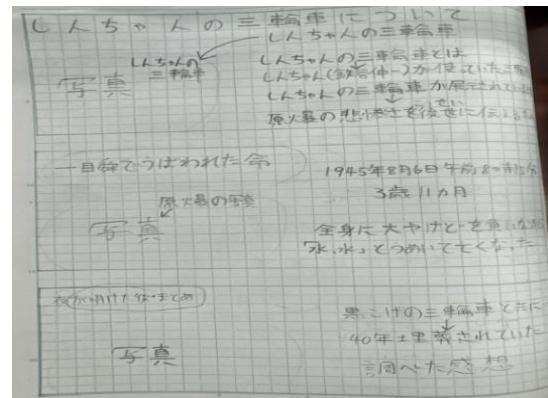
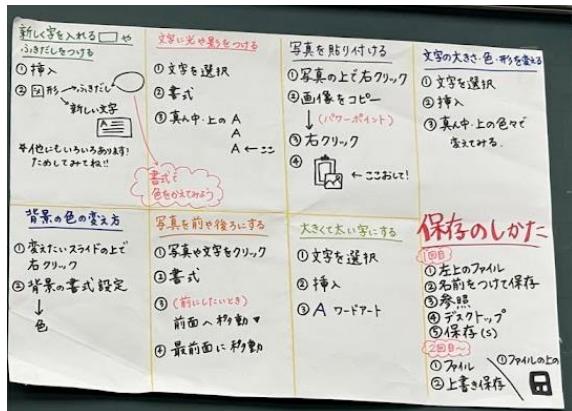
(%)

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	
1、パソコンを使った授業は好きだ。	55	34	11	0
2、文章を入力することができる。	66	29	3	2
3、検索して情報を収集することができる。	60	26	14	0
4、収集した情報をフォルダに保存することができる。	43	31	23	3
5、収集した情報を整理することができる。	40	26	31	3
6、パワーポイントを使ってプレゼンテーションのスライドを作成することができる。	57	29	9	5
7、引用参考した場合、出所を記入することを知っている。	31	40	20	9
8、パソコンを使ったグループ学習を進んで行うことができる。	40	49	9	2
9、学校で決められたルールを守ってタブレットを使うことができる。	74	24	2	0

10. 成果と課題

(成果)

- ・ 資料作りのポイントが分かりやすく提示されていたのでスライドが作りやすく、スムーズに作業ができていた。
- ・ 自分の発表資料の流れを事前にノートにメモしていたので、どの児童も主体的に課題に取り組むことができた。
- ・ 机を班の形にすることで交流が増え、教え合う姿がたくさん見られた。
- ・ 気づきメモを活用することで、ひとめでみんなの振り返りを見ることができ、発表が苦手な児童も意思表示がしやすく、振り返りを交流することができていた。



(課題)

- ・ 作成した資料の交流は出来ていたが、平和について下級生に何を伝えたいのか、という部分の交流が見られたらよかったです。
- ・ 発見タイムで発見したことを全体で交流してもよかったです。
- ・ スライドを作る上での、良い例と良くない例の比較があればもっと主体的に学べていたのかかもしれない。

